

令和5（2023）年度第1回栃木地域公共交通活性化協議会県北地域部会

議事録（議事概要）

開催日時：令和5（2023）年7月5日（水）13:30～15:00

会議方式：オンライン

（事務局：栃木県県庁）

1. 出席者

令和5（2023）年度第1回県北地域部会 出席者名簿

1 委員

No.	区分	所属		役職	氏名	備考
1	地方公共 団体	栃木県	県土整備部 交通政策課	課長	横尾 元央	部会長
2		大田原市	市民生活部 生活環境課	課長	田上 建二	
3		矢板市	市民生活部 生活環境課	課長	山口 武	
4		那須塩原市	市民生活部生活課	課長	鈴木 正宏	
5		さくら市	総合政策部 総合政策課	課長	関 和久	
6		那須烏山市	まちづくり課	課長	小原沢 一幸	（代理）主査 益子 昂大
7		塩谷町	くらし安全課	課長	吉成 伸夫	（代理）係長 磯 修治
8		那須町	ふるさと定住課	課長	高久 祐一	
9		那珂川町	生活環境課	課長	杉本 篤	
10	公共交通 事業者	東日本旅客鉄道（株）	大宮支社 経営戦略ユニット	ユニットリーダー	伊藤 滋	
11	一般乗合 旅客自動車 運送事業者	関東自動車（株）	路線バス部	部長	福島 崇文	
12		ジェイアールバス関東（株）	西那須野支店	支店長	中川 行雄	
13		しおや交通（株）		代表取締役	増渕 岩男	
14	公共交通 関連団体	（一社）栃木県バス協会		専務理事	小矢島 応行	
15		（一社）栃木県タクシー協会		専務理事	鉢村 敏雄	欠席

2 栃木県

No.	区分	所属		役職	氏名	備考
1	県	県土整備部交通政策課		課長補佐（総括）	原田 和彦	事務局
2		〃	公共交通担当	課長補佐	亀山 泰剛	〃
3		〃	〃	主査	菊池 弘幸	〃
4		〃	〃	主査	小林 正孝	〃
5		〃	〃	主事	遠藤 大樹	〃

2. 議題

- (1) 開会
- (2) 令和4（2022）年度 栃木県地域公共交通活性化協議会の開催状況について
- (3) 栃木県地域公共交通計画（仮称）に向けた意見交換
- (4) その他
- (5) （閉会）

3. 協議事項

(1) 開会

- ・ **【事務局】** 令和5年度第1回県北地域部会を開催する。本日は、13名の委員に出席を頂いており、規約第六条第二項に定める定足数に達しているため、協議会が有効に成立していることをご報告する。
- ・ **【横尾部会長】** はじめに議題1 令和4年栃木県公共交通活性化協議会の開催状況について、事務局より説明する。

(2) 令和4（2022）年度 栃木県地域公共交通活性化協議会の開催状況について

- ・ **【事務局】** 事務局から、資料1について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 意見が無かったため、次の議題に進む。

(3) 栃木県地域公共交通計画（仮称）に向けた意見交換

- ・ **【事務局】** 事務局から、資料2（P1-15まで）について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 大田原市ではダイヤ改正路線の再編、地域のお出かけ支援などの事業を行っている。生活支援体制整備事業等の会議で市民の意見を伺い、計画に反映されているようだが、具体的に伺いたい。また、他地域との繋がり、教育の点での連携を県に期待しているが、それに関するコメントを伺いたい。
 - **【大田原市】** 生活体制支援整備事業を実施している各地域の会議に参加して、各地区の移動ニーズ、地域に寄り添ったサービス、要望をヒアリングした結果、デマンド交通に関する要望が挙がっている。利用しづらい、使い方が分からない等の意見が上がっており、民生委員に協力いただき、デマンド交通を利用した買い物ツアーを慣行し計10回、69名に参加いただいた。一度利用すると使いやすいという声、やはり使いづらいという声様々であった。1人でおでかけしてみた高齢者の中には自信につながったという声も挙げられ、一定の効果が得られたと考えている。
 - **【横尾部会長】** 地区ごとに会議に出席されて、使い方が分からなかったという声に対して民生委員に協力いただいた取組は特徴的である。地域 MaaS 等様々な考え方、手法がある

が、県全域として福祉や教育など他分野と連携できる MaaS を考えていきたい。今年度も
デマンド体験会は実施しているのか。

- 【大田原市】今年度も社会福祉協議会が力を入れており、親園地区と両郷地区で開催予定
である。両郷地区は6月末から7月上旬にかけて4回行う予定である。
- 【横尾部会長】社会福祉関係の方々と連携をすることで拡大が見られ、他の市町も参考
になる。

- ・ 【横尾部会長】那須塩原市ではバスの路線変遷とデマンド交通の導入などに取り組みられてい
る。また昨年度、自動運転実証実験を塩原温泉で実施したが、取り組みについて、現時点での
状況説明をお願いしたい。また環境・持続可能性の観点から県への要望があれば伺いたい。

- 【那須塩原市】昨年度に第2次公共交通計画を策定し、グリスロやEVバスの取組を促進
させていくという目標を掲げている。交通空白地の解消が課題となっており、現在は市
域の3割が交通空白地になっている。グリスロやEVバスだけでは、課題解決に結び付け
にくい。那須塩原市はエリアが広く、グリスロでは最寄りバス停へのアクセスも難しい。
交通空白地解消のため、デマンド交通（ゆータク）の再編も検討中であり、来年度実証実
験を実施し、今年度はそれに向けたシミュレーションの実施や本格運行を目指した課題解
決に取り組む。また、県への要望として、グリスロやEVバス導入に関わる財政的支援等
をお願いしたい。先進的に取組を進めている中でお願いしたいと考えている。

- 【横尾部会長】交通空白地に関する課題解決に向けて取組を実施していることがわかっ
た。調査に関しては、補助金制度・交付金が活用可能かご相談いただきたい。

- ・ 【横尾部会長】さくら市では公益性・福祉を重視しており、公共交通総合マップを作成し、乗
合タクシーで全地域の交通を網羅できるよう取り組まれているが、具体的にご説明いただきた
い。また他地域のつながりと教育、連携の点で県への要望についても伺いたい。

- 【さくら市】公共交通は幹線が関東自動車、フィーダーは乗合タクシーが区域運行してい
る。乗合タクシーは市内全域を運行区域としており、交通空白地帯はゼロである。ドア to
ドアで運行しており、サービスレベルとしては高い認識している。利用者の9割が高齢者
であり、情報提供が難しいため、紙面の公共交通総合マップを作成した。今年度も予算を
組んで作成しており、大変好評である。行政施設ではすぐになくなるため、追加増版等
を実施している。乗合タクシーの運転手、車両の確保が困難であり、利用者の待ち時間が長
くなる課題もある。それに対するユーザーの方からの不満は一定数ある状態である。満足
度も年々下降傾向にあり、てこ入れが必要である。

- 【横尾部会長】予算の状況についてはいかがか。予算は十分にあるものの、ドライバー不
足によって利用者からの不満があるのか確認したい。また、さくら市は他地域の繋がり、
連携に関する要望があったが、どのような考えを持っているのか。

- 【さくら市】業務発注してもタクシー業者が手を上げない。さくら市には2社の運行委託
を実施しているが、拡大は経営的にも難しいというのが現状である。交通ユーザーが圧倒

的に多い高齢者のうち、矢板市の病院に通院している市民が一定数いる。乗合タクシーは区域運行であり、さくら市では交通空白地がないが、隣接している矢板市へ向かう交通手段として乗り合いタクシーでは困難であり、仮にバス路線を運行するにしても民間路線バスはなく、交通空白地自家用有償も区域運行していることから、矢板市へのアクセスが困難である。これらの背景から他地域への繋がりについて支援いただきたい。

➤ 【横尾会長】乗合タクシーは市内運行ではサービスレベルが高くなる一方で、台数やドライバーの不足の観点から利用者に不満が溜まっていることがわかった。

・ 【横尾部会長】那須町では公益性や福祉を重点に置いた取り組みを行い、特に障がい者に対してのサポートが手厚いが、内容についてお聞きしたい。他地域との繋がりや利便性の点で県への要望があれば伺いたい。

➤ 【那須町】高齢者に向けた町民バス及びデマンド交通の料金割引支援を実施している。また、免許返納者には町民バス・デマンド交通の回数券を付与し60歳以上の方に割引をしている。高齢者は通院のための移動が多く、大きな総合病院が那須町にないため、那須塩原、大田原、白川方面へのバスに関する要望がある。コミュニティバス、路線バスともに黒磯地域への運行はあるが、費用的な課題があり増便は見込めない。また、利用者も伸び悩んでいる。さらに、鉄道との乗り継ぎが不便という声も頂いている。そのような中で、ICカードの導入を進めていきたいと考えている。令和6年度から対応したいと考えている。

➤ 【横尾部会長】利用者の利便性及び観光客の利用を考慮すると、ICカード導入は効果的と考えられる。那須町では地域住民の方から意見を吸い上げる施策を実施しているのか。

➤ 【那須町】大田原市のように様々な地区に行ってヒアリングするというようなことは実施していないが、利用者アンケートやデマンド交通に対して話を聞く機会を設けている。また、公共交通会議で高齢者施設の方にも参画いただいております、ワーキンググループを設置している。

・ 【横尾部会長】那賀川町では移動制約者への通院サポートとして、デマンドタクシーと路線バスの乗り継ぎにより利便性を図っているが、どのような取り組みかご説明いただきたい。また収益性や持続性可能性の点で県への要望があれば伺いたい。

➤ 【那珂川町】那須町同様、那珂川町にも総合病院がなく町外の大田原市にある総合病院への移動ニーズが高い。デマンドタクシー等の利用者からもそのような意見を頂いている。コミュニティバスと乗合タクシーの乗り継ぎの利便性を向上の観点から、新しい乗降情報場所をバス停留所の近くに設置し、高齢者が休憩しながら待機できるような施設を昨年度から増設した。課題としては、運行ダイヤとの調整があるため、総合病院の方で検診受けてバスで帰ってきた後に、デマンド交通との調整が必要である。今年度から国の補助事業で、エリア一括協定の事業があり、広域的な共同運行が実現できるように推進していく予定である。また、県計画の中には役割の位置づけを記載いただき、プラスして各自治体の

方で運行しているデマンドタクシー自治体境界での連結ができれば、幹線から外れた地域でも移動がシームレスになる。このような支援を頂きたい。

- **【横尾部会長】** デマンド交通とコミュニティバスの乗継強化を行い、病院の足として活用しているが、実際にニーズはあるのか。
- **【那賀川町】** デマンドタクシー利用者に対してヒアリングを実施したところ、大きい病院へ行きたいという要望が確認され、ニーズとしては多いと実感した。

- ・ **【バス協会】** MaaSを導入すれば公共交通の課題が解決するわけではない。あくまで手段であり目的ではないことを把握しておく必要がある。県内すべてのMaaS連携と考えると、役割は栃木県と考えているが、MaaSが高齢者の外出支援策の中に位置付けられている事例もある。民間会社で、現在70歳以上の高齢者の方に対して、「おでさぽ70（関東自動車、JRバス関東）」が進められている。可能であれば、コミュニティバスも含めたMaaSの推進、キャッシュレス化が進むと良い。高齢者外出支援策も含め、県内どこにでも行けるような取組があると良いと考えている。

- **【横尾部会長】** 栃木県としてもMaaSを整備する場合は統一的な仕組みを構築するべきであると考えており、現在検討中である。県内すべての路線で乗り放題にする施策は1つの手段として要検討する。

- ・ **【JR東日本】** 県央地域部会で、わたらせ渓谷鉄道の品川委員の意見に近いが、幹線は鉄道が担うことが理解をしている。沿線の利用者の生活を豊かにしていくことが重要である。運行方法については責任を果たしていく必要があると認識している。また、高校生の通学については全て希望・要望通りにはなっていないことは認識をしているが、利用者増加も含め取組を進めていく所存である。

- **【横尾会長】** 引続きの取組を期待している。

- ・ 続いて、2019年の9月に策定した栃木公共交通広域ネットワークガイドラインに基づき、計画における共同者の役割分担について、事務局より説明する。

- ・ **【事務局】** 役割分担（資料2のP16以降）について説明した。

- ・ **【横尾部会長】** 意見が無かったため、最後の議事であるその他について、事務局より説明する。

(4) その他

- ・ **【事務局】** 地域部会は、今年度も活性化協議会と合わせて引き続き開催する予定のため、ご理解ご協力をいただきたい。また本日の意見公開を経て、アンケートの記載内容の加筆修正等がある場合は、1週間を目途に事務局までご連絡いただきたい。
- ・ **【事務局】** 本会出席者のうち、発言のなかった委員からの意見を伺いたい。

- 【関東自動車（株）】路線バス事業はコロナ前と比較し、利用者が15～20%減少している。また慢性的な運転手不足に加えて、2024年4月より労働基準法の改善も予定されているため、各自治体と情報共有しながら課題に取り組みたい。
- 【JRバス関東】利用者の回復が見込めないが、利便性を損なわないために最低1時間に1本運行している。今後のサービスや見合う料金の検討のため、各自治体と相談して進める。
- 【塩谷町】地域内交通について、最寄り駅と路線バスやデマンドバスで繋ぐことを町として考えていかなければならないが、路線の維持においても課題が複数ある状況である。また、担当職員数や知識も不足しているため、県の支援や相談、地域部会に支えられている。このような支援を継続していただきたい。

【横尾部会長】

- ・ 全ての議事が終了したため、事務局にお返りする。

(5) (閉会)

【事務局】

第1回県北地域部会を閉会する。